

新里海かわら版

「長浜・御畳瀬・浦戸」の地域おこしだより

VOL.

4



2021年8月発行

KOCHI CITY

特集

浦戸小学校発 子どもたちの挑戦

「うらどめし」考案中

浦戸小学校5・6年生が総合学習で取り組んでいる「うらどめし」づくり。食で地域を元気にし、みんなに長く食べ続けてもらいたいと、子どもたちがオリジナルレシピを考案中。シェフのアドバイスにも真剣そのものです。

浦戸小学校 発

子どもたちの挑戦



浦戸小学校の玄関口に飾られた校舎のジオラマ

全校児童42人、市内で一番児童が少ない浦戸小学校。

特認校として過半数の児童が校区外から通学し、プログラミング的思考育成や桂浜水族館とのコラボレーションなど、特色ある教育を行っています。

そんな浦戸小学校の子どもたちが今取り組んでいるのが、浦戸の「地域活性化」。子どもたちの挑戦を取材しました。

桂浜花海道から北に小道を入り込んだ場所にある、保育園（うらど龍馬保育園）と並んだ小学校。そこが高知市立浦戸小学校です。

平成29年度、児童数は26人まで減少しましたが、様々な取り組みの結果、今年度の児童数は42人まで増加。校区外から入学可能な特認校であり、「子どもたちの主体性を育てる」ことを大事に、特色ある授業を行っています。メディアに取り上げられることも多く、子どもたちは大人以上に「取材慣れ」していると、藤田由紀子校長は笑います。

そんな浦戸小学校が特に力を入れているのが、総合学習。昨年度は「つくる」をテーマに、1・2年生が「浦戸のお魚図鑑」、3・4年生が「新しい避難路」、5・6年生がAR※

ゲーム「うらごんをさがせ〜みんながたんけんたい〜」に取り組みました。

ARゲームづくりを手伝ってくれたのは、大学生。東京大学の学生たちが全国の地方と繋がり、課題解決に取り組む「フィールドスタディ型政策協働プログラム」の一環として、児童とオンラインで交流しました。地方の人口減少について教わる中で、子どもたちから「人の取り合いでなく、地域に関心を持つてくれる人とのつながり（関係人口）も考えるべきだと思った」という感想も出るなど、子どもたちにとって新たな気づきがあったようです。

ARゲームにはいろいろな色をしたほうが登場するよ!



▲浦戸小学校のキャラクター「うらごん」

※AR（拡張現実）とは、スマートフォンやタブレット端末などの機器を使ってCGを現実世界に映し出すことができる技術。

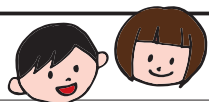
「自分で考える」を大事に

浦戸小学校 校長 藤田由紀子さん

私たち教員は、日々の授業を柱として、子ども主体で課題解決を行う授業スタイルを「うらどベーシック」と呼び、推進しています。例えば、4年生以上が日々の掃除や行事の企画を率先して行い、先生に提案します。上級生が下級生を導く垂直的関係と、学年に関係なく同じ目線で物事を見る水平的関係が活きていると感じます。

また、小さな世界で閉じないように、多様な交流を大切にしています。高校生・大学生や特別授業に来てくれる大人だけでなく、石川県の小学生ともオンライン交流をしています。今では、どの児童も、誰に対してもしっかり受け答えができます。小規模校だからこそ、担任だけでなく教員全員が子ども一人ひとりと関わりを持つことができますし、子どもたち同士も同様です。浦戸小には児童一人ひとりの特性をお互いに理解し、尊重し合える環境があります。





社会の役に立つものをつくる。 (昨年度の学習内容)

1・2年生

小学校のすぐ近くにある浦戸湾。そこにすんでいる魚を知っていますか。

1・2年生が作ったのは「浦戸のお魚図鑑」。桂浜水族館にも出掛け、生きた学びを体験。図鑑は水族館でも展示されました。



3・4年生

3・4年生は、「新しい避難路」をプランから整備まで実施。地域の方の力も

借りながらやり遂げました。完成後も「お年寄りや登りづらいよね」など、改善を考え続ける姿勢に、大人も学ばれます。



5・6年生

5・6年生はARゲーム「うらごんをさがせ」を制作。浦戸小の良さをみんなに

知ってほしいという気持ちで作ったこのゲーム。参観日には、タブレットでARゲーム大会を実施し、運営も子どもたちが担当しました。



子どもを見守る地域の声

子どもたちが楽しく過ごせる第三の居場所をつくりたい。



浦戸地区で子どもたちが交流する場の一つになっている駄菓子屋「ぶらんこ」。放課後には、幅広い年齢層の子どもたちが集います。

そんな地区の子どもたちを温かく見守る店主の濱口瑞穂さんにお話を伺いました。

Q 駄菓子屋を始めたきっかけは？

私が子どもの頃に浦戸にあった駄菓子屋がなくなると知り、子どもたちの居場所が減るのはかわいそうだと思って。オープン後20年が経ち、当時小学生だった子たちが結婚して、今では子どもを連れてきてくれるようになりました。

Q 子どもたちの様子は昔と変わった？

昔は子ども同士で話していましたが、今は私にも話し掛け、コミュニケーションに巻き込んでいきますね。

Q 今後の目標は？

今のまま、子どもたちが集まる賑やかな駄菓子屋として続けていけたらいいなと思っています。

駄菓子屋「ぶらんこ」店主 濱口瑞穂さん

食で地域活性化を

昨年度の学習から、「関係人口を増やさない」という考えに至った子どもたち。今年度の総合学習で5・6年生が取り組むのは「食」を使った地域活性化。楽しんで作り、楽しんで食べられる「うらごめし」を開発しようと頑張っています。

7月2日の授業では、シェフを招き、調理手順を間近で見学しました。「レシピができたなら教えてとおばあちゃんに言われちゃう」「まずはわが実現をめざします。



▲うらごめしのレシピを考えるため、帯屋町で南欧バル「アミスタ」を経営する瀬川シェフから本格的なパエージャの作り方を学びました。

家のメニューにしたい」など、意気込みを語っていました。狙うは地域の活性化。挑戦は始まったばかりです。



浦戸小学校では、フェイスブックでも活動をご紹介します。ぜひ「いいね！」をお願いします。



受講生
募集

受講料
無料

地域おこし学校「こうちみませ楽舎」 本格開校！

がくしや

地域おこし学校「こうちみませ楽舎」は、平成24年3月に閉校となった「旧御豊瀬小学校」の校舎を再び活用し、長浜・御豊瀬・浦戸地域をフィールドとして、地域活性について学び、実践する学校です。

域内外から46人が集まり、この地域の未来について考えました。本格開校となる今年度は、プレ開校の受講生から出た意見を参考に、3教室に拡大して実施。プランの実現に向けて取り組みます。



▲昨年度の教室（まちあるきプランづくり）の様子

申し込み・詳しくは
ホームページをチェック！

※新型コロナウイルス感染症の状況により、日程・内容の変更や中止となることがあります。



教室1

学校活用プロジェクト 教室活用プランづくり&DIY

旧御豊瀬小学校の1教室の活用プランを考え、DIYで目に見えるカタチにしていきます。

- 講師① 吉富 慎作さん
NPO 法人土佐山アカデミー事務局長／内閣府地域活性化伝道師
- 講師② 足利 成さん
建築家／ログハウスビルダー／空き家改修プロジェクト開催中

教室2

商品開発プロジェクト 地域食材でご当地バーガーづくり

魚や野菜など、地元の食材を使ってご当地バーガーを開発します。

- 講師① 小川 麻里子さん
香南市地域おこし協力隊／高知食材で自家製酵母パンを考案中
- 講師② ディギー（田中 誠一）さん
中土佐町地域おこし協力隊／キッチンカーでカレー店を営業中

教室3

情報発信プロジェクト 絵と文字で伝える地域のストーリーづくり

地域の魅力を、絵と文字を使って発信！あなたの視点を活かしてみませんか。

- 講師① 辻村 レコさん
漫画家／第77回・78回ちばてつや賞（講談社新人漫画賞）受賞
- 講師② 高橋 萌瑛さん
高知大学地域協働学部学生／グラフィックレコーディング等で活躍中

開催日(予定)

9/25[±]～12/4[±] 隔週
土曜日

(9/25・10/9・10/23・11/6・11/20・12/4の全6回)

時間 教室1・2は9時～12時、教室3は13時半～16時半。ただし、初日(9/25)と最終日(12/4)は全教室とも9時半～12時半。

対象

次のいずれかの要件を満たす方で、原則全日程に参加できる方。お住まいの地域は問いません。

- ① 地域おこしに興味がある方
- ② 長浜・御豊瀬・浦戸地域で新しいことに挑戦したい方

定員

各教室12人程度

※ 申込者多数の場合は、申し込み理由・自己PR等をもとに選考。

申込方法

申込フォームからお申し込みいただくか、所定の申込書に必要事項を記入し、地域活性推進課までメールまたはファクス、郵送、直接持参（平日9時～17時）のいずれかで。

申込期間 ▶ 8/2月～8/20金（必着）

申込先 ▶ 高知市地域活性推進課 〒780-8571 高知市本町5-1-45 ☎088-823-8813 ファクス088-823-9382 ✉kc-011700@city.kochi.lg.jp

さとうみ編集室

■初めまして！この度広報ボランティアとしてお手伝いすることになりました横山公大^{こうたけ}です。幼少の頃の桂浜での砂遊びや宝探し、桂浜水族館での思い出はよく覚えています。今でも桂浜でイベントを仕掛けたり、御豊瀬や浦戸では、よく小舟を出して子どもや友人らと釣りにも出掛けるなど、本当に馴染み深い地域です。この地域の発展に関われるのはとても嬉しく、魅力の発信はもとより、新しい発見にも努めてまいります。

■初めまして！広報ボランティアに参加することになりました、小椋^{おぐら}将史^{まさし}です。今年度より2度目の高知在住となりましたが、1度目は幼少期であったことから、長浜・御豊瀬・浦戸地域について知らないことが多いです。しかし、活動を通して3地域のことについてたくさん知り、地域に眠っている魅力を自身の視点から探していきたいです。また、魅力発信によって地域外の方が現地へ足を運ぶという動きにつながるのばいいなと思います。



横山公大さん



小椋将史さん